

社会福祉法人 平成会

平 不老乃郷

広報誌 Vol.100

社会福祉法人 平成会 自分らしく生きることを支えます

発行 平成31年2月15日



3.3 (日) ひな祭り

菱餅の3色は、白(雪が解ける)、緑(新芽が出る)、紅(花が咲く)。春の訪れを表しています。

4.21 (日) ふれあい食事会

入居者とご家族も交えての食事会。今年は、どんなご馳走なのか楽しみです。

5.5 (日) 端午の節句

『勝男』にちなみ、強く逞しく育つようお願いを込めて食べられる鯉(かつお)。不老の郷では、「いつまでも元気に」という願いを込めて。

遊 くらし 悠



17号よりA4判単色刷りになりました。

24号より「不老の郷だより」となりワープロ打ちになりました。

34号より「施設だより不老の郷だより」となりカラーになりました。

15年前 年月の経つのは早いものですね。

創刊号はB4の白黒裏表手書きでした

毎月特集記事を組み施設内の様子をお知らせしております。

集記 「不老の郷 施設だより」もついに100号という節目を迎える事が出来ました。記念すべき第1号は平成5年10月に発行されました。最初の頃は「VOICE 不老の郷通信」というタイトルで全面白黒刷り、文章も絵も全て職員が手書きで書いていました。文章と絵のみだったものが写真を掲載するようになり、手書きがワープロになり、白黒刷りがカラーになりと様々な変化をしてきました。ですが、この広報誌を読んで下さる方に不老の郷という施設がどのような施設なのか、入居者様、ご利用者様は何をして過ごされているのか、などわかりやすく伝えるという思いは創刊当時から変わっておりません。

今後その思いを忘れずに広報誌を作成していきたいと思っております。次号は新元号になってからの発行を予定しております。お楽しみに!

(大石)



平成会では、社会支援事業として、3カ所の地域でサロンを開催しています。今回は、「体操サロン永さんといっしょ」を紹介します。毎月第3木曜日に特別養護老人ホーム不老の郷1階食堂にて14時~15時の間、軽体操を行います。永さんこと田中理事長と近隣にお住まいの方が参加され毎回楽しく体を動かしています。初めての方もお気軽にご参加ください。

会場 瑞穂町二本木1319
電話 042(557)3030

「体操サロン」に参加しませんか?

Feature

特集

Kさんの1日



Kさんは要介護4で車椅子を使用しており、腕や脚に軽い拘縮が見られ、排泄ケアや入浴ケア、食事ケアなど日常生活全般で介助が必要な方です。

そんなKさんの朝は職員の声掛けによって1日が始まります。朝の挨拶をすると眠たそうな顔でお辞儀をする時や、「おはよう！」と元気な声で挨拶をしてくださったりとその日によって変わってきます。

朝の挨拶を済ませ職員に誘導され食堂で朝御飯です。不老の郷では生活リハビリも兼ねて食事の際は車椅子から椅子に移乗できる方

にはなるべく椅子に座っていただき、ご飯を召し上がってもらいます。その方にあった椅子の高さや、テーブルの高さにする事で正しい食事姿勢（前傾姿勢）が取れるのです。

食事では食材によって食べやすい大きさにして提供しています。全量自力で召し上がる時もありますが、途中で疲れてしまったり、お皿が遠くて届かなかったりする時があるので、職員が時々介助して食べていただいています。

午前中は朝の会や遊びリサークル等に参加されたりしています。遊びリサークルでは積極的に身体を動かしたり、歌を唄ったりと楽しんでる姿が見られています。

昼食を食べ、約1〜2時間のお昼寝後はおやつを召し上がり、テレビ鑑賞の時間です。音楽番組やお笑い番組が好きなようので、特に

「8時だよ！全員集合」を観ている時は最初こそ周囲を気にしながら小声で笑うのですが、だんだんとその笑声も大きくなり、「ふはっはっはっは!!」と爆笑されている姿がみられています。

あっという間に夕食の時間に。食後は口腔ケアをしっかりと行い、パジャマに着替えて就寝となります。

起床時と同様、職員が「おやすみなさい」と声を掛けると、「おやすみなさい」と笑顔で挨拶をしてくださいます。



と一緒鑑賞いたしました。最後に手作りの「たこ焼き」を皆でほおばり新年の門出をお祝いし楽しい交流となりました。

合同新年会の様子



第2デイサービスセンターお茶のみ処

去る平成31年1月5日、元狹山コミュニティセンターで、第1デイサービスセンター不老の郷、第2デイサービスセンターお茶のみ処合同新年会を開催いたしました。

社会福祉法人平成会田中理事長の挨拶の後、瑞穂農芸高校プラスバンド部・軽音楽部の方の演奏や、子供ダンスチーム「Brave」の可愛いダンスを、デイサービスの利用者地域の方々

hot time

入居者様との
楽しい話、
心温まる
エピソード。

Hさんは一人で歩かれますが不安定で、過去に転倒もされています。認知症により言葉が話せず「あーあー」「おうー」と聞き取る事が出来ません。歩行時は、できるだけ職員が見守っています。どうしてもそれが出来ない事もあります。そんな時、助け舟を出して下さるのが、認知症もなく歩行もしっかりしているNさん。Hさんが落ち着かず歩き回っていると、「Hさん、こっちこっち」と自分の方へ呼びます。フロアにあるベンチにお二人で座っていると、「おう、うん」と安心したように柔和な表情で何度も頷いています。言葉は解らずとも、いつも良くしてくれているNさんの事を信頼しているのがよく分かります。職員は、そんなNさんに「いつもありがとう」と声を掛けながら、他の入居者の介護にあたっています。

までの半分位の力で動作できるようです。

まずは、先月末に職員説明会を開催しました。今後本格的に使用していきますので、これから様々なシーンで活躍が期待されます。興味のある方は、以下のURLをご参照ください。



<https://innophys.jp/> 「イノフィス」で検索

落語家のボランティアに来ていただきました。

「平成30年12月21日（金）デイサービスセンター不老の郷にて、全日本おむつ団ボランティア演芸会」を実施しました。

落語家の古今亭志ん五さんの楽しいお話で、利用者も大笑いし年忘れをさせていただきました。笑いは健康に良いと皆さん大喜びでした。



特別養護老人ホーム「不老の郷」

次世代介護機器（介護ロボット）

「マッスルスーツ」を導入しました。

不老の郷では、介護職員の介護労働の負担軽減および入居者様が安心して介護を受けていただくために、東京都より次世代介護機器の活用支援事業の補助金交付事業者に選ばれまして「マッスルスーツ」を導入しました。

「マッスルスーツ」は東京理科大発のベンチャー企業・株式会社イノフィスが開発。後ろに背負った人工筋肉を圧縮空気中で介護者の動きに合わせてアシストするため、電力を必要とせず、軽くて耐久性に優れたものになっています。実際装着すると、思っていたより軽く、重量物の持ち上げも今